

そらんぽへ行こう

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

特集展示

「大正・昭和のモダンデザイン」を開催

縦15.5cm×横6.4cmの絵封筒。絵封筒とは、封筒の宛名面に木版画で図案をあしらったものです。

当館ではこうした小さな絵封筒を約400点収蔵しています。そのうち「K」などのサインが見られるものは、大正から昭和にかけて京都で活躍した図案家・小林かいち（1896－1968年）がデザインしました。

澄んだ青のグラデーションが美しい「街燈に人物」は、きらめく星空の下、街灯の傍らで一人の人物が佇んでいます。シルエットで表された人物は、うつむいている様子。左下



小林かいち
「街燈に人物」



絵封筒が収められた
アルバム「聚優」

へ細く伸びて重なった街灯と人物の影が、作品全体にもの悲しさをまとわせています。かいちなどが手掛けた絵封筒は、当時の女学生を中心に人気を集めました。当館の絵封筒も、かつての持ち主がそうしたように専用のアルバムに1枚ずつ丁寧に収められています。

絵封筒は、12月9日から令和8年3月1日まで博物館3階展覧処・白里亭で開催する特集展示「大正・昭和のモダンデザイン」（観覧無料）で紹介予定です。小さな画面に込められたドラマティックなデザインをご覧ください。

文化財さんぽ

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

特殊な須恵器や埴輪

「茶臼山古墳群出土品」

日永地区の泊村には、5世紀後半から6世紀初めごろに造られた4基からなる「茶臼山古墳群」が所在します。開発に伴い平成5（1993）年に4号墳、同9（1997）年に1号墳の発掘調査が行われ、古墳の墳丘に置かれたと考えられる埴輪や、供えられた土器が出土しました。

埴輪には人物（巫女）形・家形・馬形・太刀形などの「形象埴輪」と、器台の上に壺を載せた形状の朝顔形を含む「円筒埴輪」があります。巫女形埴輪には目・鼻・耳が表現され、頭部に鬘が付けられています。家形埴輪



人物（巫女）形埴輪



須恵器 台付四連杯など

には寄棟造の平屋の建物が表現されています。土器には須恵器の杯身・杯蓋、高杯、甕、樽形甕、器台、甕、壺に加え、県内初出土の台付四連杯があり多様な器種が見られます。

これら古墳群の埴輪・須恵器は、本市の古墳時代の暮らしの様相を考える上で欠かすことのできない重要な資料として、平成18（2006）年に市指定有形文化財（考古資料）に指定されました。令和8年度には皆さんに見ていただく機会を設けたいと思います。その際はぜひご覧ください。